

女川原発の再稼働を止めよう！宮城県民大集会に800名以上参加

9.26 杜の都、仙台で脱原発の声高らかにこだまする。

15万7724筆の「請願署名」、県議会に提出。知事は再稼働に同意するな。

集会報告－再稼働阻止全国ネット 沼倉 潤

【女川町議会、石巻市議会再稼働容認も4回目の再稼働延期表明、

女川2号機、再稼働は2023年以降】

台風崩れの低気圧で前日は大荒れの天候も回復した、9月26日(土)、仙台市錦町公園で

「女川原発の再稼働を止めよう！宮城県民大集会」が開催されました。

東北電力は2013年12月に2号機の再稼働申請を規制委員会に申請。女川原発は東日本大震災時に13mの津波に襲われ、原発周辺の地盤は1mほど沈下し、外部電源5回線中4回線が停止、1号機の電源盤火災も発生するなど、過酷事故寸前の状況にあった被災原発です。2号機原子炉建屋の壁に1130か所の傷が発見されたにも関わらず、今年2月、規制委は、「新規制基準に適合している」ことを了承し、これを受けた女川町議会は9月7日、石巻市議会は9月24日に再稼働を求める陳情を採択。両議会は事実上の再稼働容認を示しました。

一方で東北電力は、安全対策工事に3400億円(特重施設建設費除く)かかり、工期についても当初計画より2年遅れの2022年度中の完成と発表。高さ29mの防潮堤の地盤改良問題などが生じ、再稼働の時期は早くも2023年以降と言われています。

また、8月に入ってから住民説明会が開催されていますが、UPZ住民には屋内退避を原則とする問題だらけの避難計画が示され、多くの住民から疑問と不安の声が上がっています。県民世論調査や「再稼働の是非を問う住民投票条例」の制定を求めた署名活動で示された再稼働反対の民意が大きくな

る中で、再稼働推進勢力は早々と議会での容認決議を取り付け、再稼働反対の声を封じる暴挙をもくろんでいるといえます。

こうした中で、9月23日の県議会開催日程に合わせ、県民大集会が開催されました。津波による犠牲者数が4000人近くに上る石巻出身の私にとっても久振りの帰郷で前日に石巻に宿泊。なじみの食堂で世間話をする中で街の様子を知ることができました。町並みは見かけ上はきれいになり、津波の傷跡は見当たりませんが、明らかに原発関連の工事関係者の姿が目立ち、後から分ったのですが、今年7月から開始された1号機の廃炉作業関連の工事従事者も多いとのことでした。

【9.6 老朽原発うごかすな！おおさか大集会(1600名)高浜1.2号美浜3号再稼働反対

**9.18 さようなら原発日比谷集会(1300名) 東海第二再稼働反対銀座デモ約300名
9.26 みやぎ県民大集会(800名)】**

◎老朽被災原発 再稼働をとめる大集会が全国各地で始まった！

【コロナ自粛を乗り越え、人にやさしく、参加者が元気になれる工夫された集会在各地で開催】

○労働組合も、生協も、市民も、若者も子供も、みんなで参加した仙台集会

集会は、午後13時30分開始。会場には色鮮やかなのぼり旗がはためき、東京の集会とは違い、国労、教組、全国一般、電通労組、民医連などの労組参加が多いのに驚きました。

生協や市民団体からの参加者は、思い思いのアピールグッズを持ち寄り、横断幕にも手作りのかわいいイラストがプリントされていました。中央ステージは、9.6おおさか集会を参考にトラック荷台に設置されていました。全国各地で開催される集会在互いにつながり、再稼働反対の輪が広がっている表れでしょうか。

《主催者挨拶》

発言時間はコロナ対策上 30 分でしたが、登壇者 4 名の発言はわかりやすく、参加者一人一人に行動を促し、活力を与えるものでした。主催者からは篠原弘典さん(みやぎアクション世話人)が「原発事故から 10 年、29500 人の避難者、県外にも 7500 人の人が苦しい生活を強いられている。そういうことを見て見ぬふりして国策だからと言って再稼働を強引に進めていることは許せない。民意は再稼働反対。今日の集会を機に、23 日から始まった県議会で知事を追求し、世論にも訴え再稼働に向かう流れを変えていこう。」と挨拶されました。

《女川から》

女川町からは町議会議員の阿部美紀子さんが「町議会 12 名中、3 名が再稼働反対、8 名が賛成だったが、大崎地区 8 団体、加美郡 3 団体、それに町民 530 名の署名を携えて反対の請願を提出。賛成理由は、商工会などの団体で、原発はベースロード電源で CO2 を排出せず温暖化を防止する。地域経済に必要との 3 つの主張。住民説明会では「安全を最優先する。できるだけ原発を低減する。」ことが示されていた。廃棄物問題が解決されていない。避難した後どうなるか、故郷に戻れない。持続する社会を目指すなら、故郷から逃げる訓練はおかしい。逃げなくともよい町、社会、故郷を目指しましょう。」と発言。

《石巻から》

石巻の原伸雄さん(避難計画を考える会代表)は「議会での容認は慚愧の思いだが、希望をつなぐ行

動がある。傍聴席からおかしいとの怒りの声が上がった。本会議では危険な再稼働を無批判に容認する議会であってはならないとの発言。議会と市民の意識に大きな乖離があるが、攻防戦は始まったばかり。20名の脱原発県議団と共に私たちが議会に足を運ぼう。「市長と知事に避難計画の同意差し止め仮処分」仙台高裁の決定は出ていない。政治の世界では国策という妖怪が徘徊し、安全神話がふりまかれている。再生エネルギーを推進し原発ゼロ社会をめざそう。」と力強くアピールしました。

「脱原発をめざすみやぎ県議の会」から佐々木功悦会長の発言もあり、最後に集会決議を採択しデモ行進が始まりました。

《決議文》 - ファイスブック検索願います。

[* 女川原発再稼働を許さない みやぎアクション - Posts | Facebook](https://www.facebook.com/pg/Stop.onagawagenpatu/posts/)
<https://www.facebook.com/pg/Stop.onagawagenpatu/posts/>

【工夫されたデモ、子供も若者も参加 アピールグッズは楽しいイラスト入り】- 添付の写真参照

デモの準備には、仙台で毎週開催され、375回になる「金曜デモ」の経験が生かされ、いたるところで市民にアピールする工夫がなされていました。コロナ対策では、横に2列、雨傘の距離をとるようアナウンスされ、宣伝カーとトラメガからは、事前にメモリーに入力されたコールが流されました。何よりもよかったのは車の侵入できない広いアーケード街でデモができたことです。通行人との垣根が取れ、子供のイラストをぶら下げたプラカードがやさしく脱原発を語りかけていました。

【デモ終了後、公園で交流会】

約1時間のデモを終え、解散地点の公園で、原発いらない福島の女たちのお二人、東京からの参加

で、会場で一緒になったツイキヤスの A さんも加わり、宮城の方との交流会が行われました。

初めて会うメンバー同士の交流会でしたが、多くの課題と問題が次々と報告されました。

発言者の原さんからは、女川町議会の中で、保守系 3 名の議員が「事故が起きたらどう逃げるのか不安だ。避難計画がきちんとするまで同意すべきではない」とし、反対派と歩調を合わせる動きを見せ、コロナで断念した小泉講演会にも積極的にかかわる姿勢を示していました。報道では反対は少数との印象記事が見受けられますが、女川町での署名数も比率から言って県内の自治体の中でも一番多く、小泉講演会が実現していたら、流れは大きく変わっていたとの地元からの報告がありました。

また、東海第二原発再稼働についても、避難の問題についてもっと相互に交流し、屋内退避について問題ありを突き付ける必要あり。東北電力から日本原電への資金支援についても、東北電力の株主総会で追及した。質問書の回答―「東北電力は、19 年度末現在、73 億円の債務保証を実施しているが、22 年末までに約 240 億円、23 年以降約 240 億円の債務保証を行うことが報道されているが当社としては決議していない」と詳細な記載がある報告書を提供していただきました。

*「みやぎ脱原発風の会」HP 収録

脱原発東北電力株主の会『第 96 回定時株主総会への事前質問書』で検索

【当日の集会、デモの様子は下記のアドレスから見られます】

<https://twitcasting.tv/keitarou1212/movie/642750469>